

町民からの意見及び町の回答

No.	該当ページ	項目名	町民意見	町の回答
1	P0	表紙 川本町デジタル化推進計画(案)の名称	①デジタル化は、手段であって目的ではない。 ②目的がわかる表現に一工夫を。 ③DXのDのみ協調だけでなくX(変革)が重要な要素。 ④最初は、DXの意味がわからない町民がほとんどだと思うが、職員にとっても町民にとってもDXのステップ0:DXの認識共有・機運醸成のためにも名称は重要	町民に「DX」という言葉に馴染みがないことやデジタルを身近のものとして普及させたいため、「デジタル化推進計画」と名称を定めました。 ただし、ご意見のとおり「DX」という言葉を浸透させていく必要性がありますので、「DX」という標記を表紙の中に入れることにいたします。
2	P22	有害鳥獣被害防止対策事業 ※実施することには賛成	①「令和4年度に行った猿のルートセンサ調査及び被害対策計画に基づき」とあるがその内容について、猟友会や調査を実施した地域住民に情報公開して欲しい。 (根拠)サービス設計第4条「総ての関係者に気を配る。」 ②川本町デジタル化推進計画(案)(P2)にあるように「職員の働き方や業務の根本にある問題の解決を再優先に取り組み～」とあるが、有害鳥獣被害防止対策事業においては、その進め方や猟友会、有害鳥獣対策員等への情報の提供の不備など根本にある問題が最優先となっていない。また、その事に対して町が気づいていない。 ③有害鳥獣捕獲の猿、猪の檻の川本町補助制度について、猟友会の諸先輩方々も知らず、また、美郷町の山クジラとの関係では、知らない間に契約が変更され、情報もHPに公開されていない。業務の根本にある問題の解決を再優先に取り組み(P2)と言いつつ取り組まれていない。また、その事に対して町が気づいていない。 ④猿の広域移動を考慮すると、特定地域のみでの事業では全体の把握は困難。また他市町村との連携も必要となる。2,3年やって、「やってみましたがやっぱりダメでした」と取り組んだ実績のみを町がアピールする結果となることを見えている。費用、人的支援も含めて長期的に本気で取り組む覚悟があるのでしょうか ⑤令和4年度の事業スケジュールが空欄となっている。他の事業は4年度実施した内容が記述してあるのにこの事業について記入されていない。 ⑥猿の移動データはタイムリーにモデル地区以外でも希望者が確認できるようにして欲しい。 猿はモデル地域外へも移動します。	①報告会にて情報共有する予定です。 ②③本計画では、「職員の人材育成」を実施することにしており、本計画の取り組みの中で職員・組織の意識改革を行っていきたく考えています。 ④有害鳥獣対策は長年の課題でありますので、デジタル技術も活用しながら、継続的な取り組みをしたいと考えております。 ⑤令和4年度に実施した内容を追記します。 ⑥貴重なご意見ありがとうございます。事業実施時に検討いたします。
3	P19	デジタルデバйд対策事業	①複数機種への対応がまず大きな課題と見受けられます。 OSのバージョンや機種毎に設定画面なども変わってしまうので、職員側の専門性が問われてしまいます。 自分で使いたい機種を選択する町民であれば、説明コストは元々低く、丁寧な説明が必要な町民に対してどうするかが本質のように思います。 川本町が機種選別して販売出来れば必要なアプリのインストール方法も全てマニュアル化も可能となります。 町として1商品を選択して販売するのが難しいのであれば、端末を貸し出すという形を取るなどして、スマートフォンを使った事が無い町民に対しても町側のバックアップがあるので利用する事に対しハードルが下がるのではないかと思います。 高齢者の情報端末利用率が上がる事は、町の特色にもなり積極的に行うべきかと存じます。	・いただいたご意見のとおり苦手意識を持っている方への対応は課題と認識しております。職員で操作等に関する対応を行うには専門性も十分でないため、実施計画に記載している「相談窓口」を設け、対応していきたく考えております。 ・また、スマートフォン等の導入ハードルを下げる取り組みについても、必要性を認識しており、計画策定段階でも検討いたしました。 検討の結果、スマートフォン等を所有していても機能を使いこなせていない方もいることから、そういった方を中心にデジタルデバйд対策を実施しながら、並行して所有していない方への施策も検討したいと考えています。
4	P27	Excel台帳のシステム化	プログラマの経験として、こういった仕事も得意なので、お気軽に相談ください。	貴重なご意見ありがとうございます。